

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

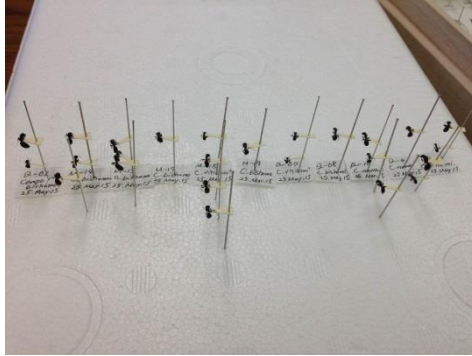
平成 26 年 6 月 29 日	
所属部局・職	理学研究科修士課程学生
氏名	春木 慶洸

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
サルが食べる昆虫の調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 23 日 ~ 平成 26 年 5 月 29 日 (7日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 杉浦秀樹氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習で昆虫班は屋久島に住むヤクザル(<i>Macaca fuscata yakuî</i>)が食べる昆虫の調査を行った。屋久島に生息する昆虫の中にはまだデータベースに登録されていない種類もあり、今年も十数種類の新しい種をデータベースに追加することができた。また、ヤクザルに食べられることが観察によって報告されているアリについても特徴的な手法を使ってサンプリングを行い調査した。 フィールドでの調査は実際に行ってみるまで何が起きるか分からず、その場で常に頭を使いながら動かなくてはならないので、フィールドに出ないで研究を行っている自分にとってはとても新鮮な経験だった。 また、フィールドワークとサンプル解析の基本的な技術を学び、ある程度の結果が出た後にまだ時間があつたため、さらにどのような調査をしていくべきか話し合う場があつた。更なる調査をするために仮説を立てて、その仮説を証明するためにはサンプリングをどのように行うべきか考え英語で話し合う時間がとても貴重で、普通の実習ではなかなか味わえない経験ができた。 今回は昆虫の分類についても非常に面白い結果が出たので更なる研究を行ってどういう結果が出るか楽しみである。 最後にこのような機会を与えてくださった京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院と、一緒に参加したすべてのメンバーに感謝いたします。特にこの屋久島実習を担当された杉浦先生と、昆虫班で丁寧に指導をしてくださった阿形先生、岡本先生、清野先生に深く感謝申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



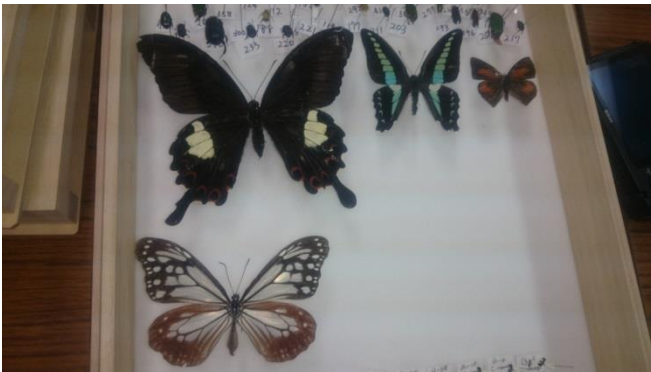
アリの採集



アリの標本



スウィーピングによる昆虫採集



昆虫の標本



昆虫班

6. その他 (特記事項など)